

## 第7節 地域社会への貢献活動

### 1. 環境保全活動

#### (1) 地下水保全活動

当行は、くまもとの地下水を守り育む活動を継続して行っている。具体的には、「阿蘇大観の森における植樹活動」「阿蘇水掛の棚田における水田耕作」「阿蘇の草原の野焼きへの支援」を3つの柱として活動している。これらの活動は公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金とともに取り組んでいる。



「阿蘇大観の森」での植樹活動

#### 【森林】水源かん養林の育成

「阿蘇大観の森」(阿蘇市小倉地区の森林61.73ha: 当行保有52ha、肥後の水とみどりの愛護基金保有9.73ha)では、グループ役職員による植樹や下草刈りのボランティア活動を定期的に続けている。植樹は2025(令和7)年6月までに51回実施し、延べ1万2,915



ボランティアによる下草刈りの様子

人が参加、計15.5万本を植えた。下草刈りにも、これまで延べ1,250人が参加した。

#### 【水田】水源かん養機能の活用

3.5haにおよぶ棚田を「阿蘇水掛の棚田」と命名し、2011(平成23)年4月から当行グループ役職員により、例年5月に田植えを、10月に稲刈りを行っている。手植え・手刈り・天日干しといった伝統的農法に加え、化学肥料・農薬を抑制した環境にやさしい農業に取り組んでいる。稲刈りまでの約5か月間田んぼに湛水することで、年間22.3万㎡(2024年度実績:25m プール568杯分)の地下水をかん養している。これまでに、田植え・稲刈りのボランティア活動として、通算31回、延べ1万3,023人が参加した。



「阿蘇水掛の棚田」での田植え

#### 【草原】水源かん養機能の保全

阿蘇の広大な草原の地下水かん養力に着目し、草原維持活動を行う「阿蘇草原再生協議会」に対して支援を行っている。阿蘇の草原で行われる輪地切り・野焼きは、放牧・採草・景観保全・生物の多様性維持のためには欠かせない作業であるが、近年では、畜産農家や放牧牛の減少により、実施が難しい状況にある。そこで当行は、草原保全・再生の担い手となる「輪地切り・野焼き支援ボランティア」を育成するために、2015年より公益財団法人阿蘇グリーンストック主催の研修会に参加している。

また、阿蘇グリーンストックへは2025(令和7)年までに1,100万円を超える寄付などの支援も行っている。

2015年10月、当行は「阿蘇世界農業遺産基金」に724万円を寄付した。同年8月まで取り扱った「阿蘇グリーン定期預金」の預入総額の0.01%に当たる金額で、当行の「地域の皆さまとともに美しい阿蘇を次世代に継承する活動を支援したい」という趣旨に、多くのお客様の賛同をいただき、預金高は724億円に上った。

このほか、阿蘇世界農業遺産基金へは2025年までに8,900万円を超える寄付等を行っている。



「輪地切り・野焼き支援ボランティア」育成研修会

#### (2) 環境保全啓発活動

##### 「肥後の水とみどりの愛護賞」による顕彰

当行が、肥後の水とみどりの愛護基金および熊本日日新聞社と主催、熊本県と共催している「肥後の水とみどりの愛護賞」は、水資源保全活動に取り組む団体・個人を表彰しており、2025(令和7)年度までに延べ366団体・17個人を顕彰した。



2024年度「肥後の水とみどりの愛護賞」表彰式

##### 「わたしのまちの〇と×・熊本」環境フォトコンテスト

当行は、2007(平成19)年から実施した「わたしのまちの〇と×・熊本」環境フォトコンテストの事務局を務めた。

熊本地震が発生した2016年には「くまもとの創造的復興」をテーマに第10回目のコンテストを開催し、環境保全啓発活動としての一定の役割を果たしたとして、この回をもってコンテストを終了した。



「第10回わたしのまちの〇と×・熊本」入賞作品集

##### 環境省との「国立公園オフィシャルパートナーシップ」

2018年6月、KFGと当行、鹿児島銀行は環境省と「国立公園オフィシャルパートナーシップ」を締結した。環境省が金融機関と同パートナーシップを結ぶのは、初めてであった。

環境省による「国立公園満喫プロジェクト」推進の一環で、環境省と企業が相互に協力し、国立公園の美しい景観と魅力を世界へ発信し、国立公園の所在する地域の活性化につなげることを目的とした。

同プロジェクトでは全国8か所の国立公園が選定され、そのうち「阿蘇くじゅう」と「霧島錦江湾」の2国立公園について、当行と鹿児島銀行がそれぞれ新たな観光客を呼び込む施設の整備支援などを行った。

##### 「第4回アジア・太平洋水サミット」への協賛

2022年4月、日本を含むアジア・太平洋地域の30か国が参加して「第4回アジア・太平洋水サミット<sup>1)</sup>」が熊本市で開催された。本サミットには、アジア・太平洋地域の30か国(わが国を含む)が参加し、岸田首相(当時)をはじめ5か国から首脳級が、10か国から閣僚級が、また国連開発計画(UNDP)などの関係国際機関代表等が対面参加(延べ約3,900人)したほか、首脳級・閣僚級

<sup>1)</sup> アジア・太平洋水サミット: アジア・太平洋地域の首脳級、閣僚級、国際機関代表らが参加し、水問題に対する認識を深め、具体的な行動を促すことを目的として開催される国際会議

を含む多くの参加者が、オンラインやビデオメッセージの形式で出席した。

当行は、ダイヤモンドスポンサーとして、1,000万円を協賛したほか、サミット内の記者会見に笠原頭取が登壇し講演を行った。また、肥後の水とみどりの愛護基金もサミット内の「九州水フォーラム」や「水の国くまもとシンポジウム」において講演・パネラーを務めた。

翌2023(令和5)年1月、当行本店大会議室において熊本市と共催でサミットのアフターイベントを開催した。サミットの報告や成果の発表、高校生を交えたパネルディスカッションが行われた。



「第4回アジア・太平洋水サミット」(提供:熊本市)

### (3) 企業活動

#### シェアサイクル駐輪ポートの設置

2022(令和4)年12月、当行はneuet(ニュート、現・チャリチャリ)株式会社と連携し、当行敷地内に同社が運営するシェアサイクルサービス「Charichari(チャリ



肥後紺屋町ビルに設置した駐輪ポート

チャリ)」の駐輪ポートを設置した。まず肥後紺屋町ビルに設置し、順次拡大していった。

熊本市と当社が共同で取り組む「熊本市シェアサイクル実証実験事業」の一つで、KFGは本事業と連携し、健康的かつ環境負荷の低いシェアサイクルを通じた熊本市街地の回遊性向上、放置自転車減少などの交通課題に取り組んでいる。

#### 環境保全に配慮した店舗づくり

当行は、店舗設計においても街並みと調和する外観を心がけるとともに、店舗入口スロープや多目的トイレの設置、お客様利用スペースにLED照明を導入するなど、環境面やバリアフリーにも配慮した店舗づくりを目指している。



北熊本支店

2019年11月に新築移転した北熊本支店では、オリーブやモミジなどをふんだんに植栽するとともに、散歩ができる小径と休憩用のベンチを設置した。駐車場には、地下水保全のため浸透性アスファルトを採用している。

2019年12月に新築移転した子飼橋支店は、当行が植樹・管理を行う「阿蘇大観の森」の間伐材を軒やインテリアに使用しており、ブランドスローガンである「うるおいある未来のために。」とSDGsを体感できる店舗となった。「綺麗な自然と水を次世代に残していきたい」という当行の想いを子どもたちが受け継ぐというコンセプトで制作された映像では、間伐材が建材として生まれかわる様子を伝えている。



間伐材を建材として活用した子飼橋支店



北熊本支店 キッズスペース



子飼橋支店

#### 「緑の流域治水プロジェクト」における雨庭整備

2022年12月、流域治水技術のひとつである「雨庭(あめにわ)」を当行グループ所有の菊陽グラウンドならびに免田支店に整備することとした。

これは熊本県立大学および熊本県と協働する「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会(緑の流域治水プロジェクト)」の取組みのひとつであった。

**雨庭**  
屋根などに降った雨水を下水道に直接放流することなく、一時的に貯留し、地面に浸透させることで流出量を抑制する技術。治水効果および地下水かん養、景観の保全や郷土植物の保全効果がある。



免田支店に設置した雨庭

当行もその後、本プロジェクトの幹事機関として、営業店やグループ会社敷地内における雨庭の整備推進と、

県内自治体や教育機関および企業などへの啓発・普及活動に取り組んでいる。

2023年5月には、2030年までに2,030か所の雨庭を整備することを目標にした産学官民連携による任意団体「くまもと雨庭パートナーシップ」が設立された。オープニング行事は当行大会議室であり、国交省、環境省、熊本県をはじめ県内の市町・大学・高校・企業など29団体が参加した。



「くまもと雨庭パートナーシップ」オープニング

#### グリーンインフラ普及による

#### 「熊本ウォーターポジティブ・アクション」始動

2025年3月、当行をはじめ熊本県立大学、熊本大学、サントリーホールディングス株式会社などの産学金6組織は、「熊本ウォーターポジティブ・アクション」を始動させた。雨庭などのグリーンインフラを用いて、開発が進む地域における水循環の保全(ウォーターポジティブ)に取り組んだ。当行は企業のグリーンインフラの設置を支援しつつ、地下水かん養などの価値をクレジット化する新たな金融手法の研究開発を進めた。



「熊本ウォーターポジティブ・アクション」始動イベント

「芦北地域におけるアマモ場などの再生に関する連携協定」の締結

2024(令和6)年11月、当行と芦北町、芦北町漁業協同組合、熊本県立芦北高等学校、鹿島建設株式会社および肥後の水とみどりの愛護基金の5組織は、「芦北地域におけるアマモ場等の再生に関する連携協定」を締結した。地域での藻場の再生を通じて、海域環境の改善、生物多様性の保全などに尽力している。



アマモ

2. 社会貢献活動

(1) 文化芸術振興

当行は社会貢献活動の一環として、文化・芸術振興のために各方面への寄付や諸事業への支援・協賛を行っている。

熊本文化財復興支援

当行とKFG、鹿児島銀行の3社は、2016(平成28)年4月の熊本地震で被災した文化財の復興支援のため、熊本県に対して「熊本城・阿蘇神社等被災文化財復興支援募金」と



目録を手に熊本県庁で撮影(左から)上村鹿児島銀行頭取、蒲島熊本県知事、甲斐頭取(当時)

して2016年度から2018年度までの3か年度で計19億5,000万円を寄付した。内訳は当行15億円、KFG3億円、鹿児島銀行1億5,000万円。

また、当行は、「熊本城応援プラン」や「くまもと復興応援私募債」など、寄付付金融商品を用意した。お客

様のご利用に応じて、発行額や運用益の一部を「熊本文化財復興支援金」として、総額7,300万円(震災後5年間)を熊本県や熊本市に寄付した。

金融商品等を通じた寄付：総額73百万円				
商品名	種類	取扱期間	寄付先	金額
くまもと復興応援私募債	私募債	2016.10 ~取扱中	熊本文化財復興支援金(熊本県)	11
くまもと未来応援ファンド	投資信託	2017.12 ~取扱中	熊本文化財復興支援金(熊本県)	7
熊本城応援プラン	個人向国債	2016.11 ~2017.3	熊本城災害復旧支援金(熊本市)	49
くまもと未来応援プラン	投資信託 定時定額	2017.7 ~2018.3	熊本文化財復興支援金(熊本県)	3
二刀流プラン	投資信託 外貨貯蓄 iDeCo	2018.8 ~2019.3 2019.10 ~2020.5	熊本文化財復興支援金(熊本県)	3
合計				73

「学び舎応援私募債」の取扱開始

地域と学校とが連携した取組みとして、当行は2016年1月から、現行の私募債に学校への寄付オプションを付加した「<sup>まなびや</sup>学び舎応援私募債」を取り扱った。発行額の0.2%相当額(総額500万円)の物品を発行企業が指定した学校に当行が寄付した。



「学び舎応援私募債」による寄付金贈呈式

「いだてん大河ドラマ館」への協賛

2019年4月、当行は「いだてん大河ドラマ館」(玉名市)の運営に協賛し、同館の特別招待券を県内の小中学生(14万6,135人)に配布した。「いだてん」は2019年にNHKが放送した大河ドラマで、郷土出身のマラソン選手・金栗四三<sup>2</sup>の生涯を描き、放送に合わせて「い

だてん大河ドラマ館」が開館、2020年1月の閉館までに全国から延べ11万7,310人が来館した。

美術展・公演への協賛

文化事業支援の一環として、当行は美術展や公演にも積極的に協賛している。過去の主な実績は次のとおり。

【美術展】

- ・2016年度/ランス美術館展
- ・2017年度/ターナーからモネへ 英国の至宝、若冲<sup>みやこ</sup>と京の美術
- ・2018年度/細川ガラシャ展



細川ガラシャ展のテープカットと展示の様子

- ・2019年度/熊本城大天守外観復旧記念 熊本城と武の世界展
  - ・2020年度/モダンアートニッポン! ウッドワン美術館名品選
  - ・2021年度/絢爛豪華! おかやま・林原美術館展 洛中洛外図屏風と大名文化、海老原美術研究所設立70周年記念 エビハラがいた時代
  - ・2022年度/印象派との出会い ひろしま美術館コレクション
  - ・2023年度/美をつくし 大阪市立美術館コレクション
  - ・2024年度/超写実 ホキ美術館名品展、美術館に行こう! ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方
  - ・2025年度/山下清展 生誕100年 百年目の大回想
- 【公演】
- ・2021年度/團 伊玖磨 歌劇 夕鶴
  - ・2023年度/山田和樹指揮 バーミンガム市交響楽団

- ・2024年度/オペラ ラ・ボエーム
- ・2025年度/第116回熊本交響楽団定期演奏会 台北市立交響楽団 エリアフ・インバル渾身のマーラー交響曲第5番

また、熊本県立劇場が児童養護施設の子もたちに舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業「ぴっころシート」をスタートさせると、当行も同事業の意義に賛同しスタート時の2007(平成19)年から事業終了までの13年間毎年協賛を行った。同事業で述べ2,000人近い子どもたちを舞台鑑賞に招待した。

このほか、出水神社の新能や狂言の会 熊本「万作・萬斎の会」への協賛など、伝統文化の次世代への継承にも力を入れている。



「ぴっころシート」ロゴ



出水神社新能



「狂言の会」チラシ

2 金栗四三(1891~1983):熊本県玉名郡春富村(現・和水町)生まれ。日本初のオリンピック代表選手の一人で、「マラソンの父」と称される。1912(明治45)年ストックホルム(スウェーデン)大会、1920(大正9)年アントワープ(ベルギー)大会、1924年パリ(フランス)大会に出場し、後に箱根駅伝創設や女子スポーツの振興などにも貢献した

## (2) スポーツ振興

当行は、地域スポーツの発展に向けてさまざまな取り組みを行っている。熊本県下最大の駅伝大会「都市対抗熊日駅伝」に、2007(平成19)年の第33回大会より特別協賛しているほか、2012年2月に始まった「熊本城マラソン」にオフィシャルスポンサーとして特別協賛している。

### 女子駅伝部の活躍

肥後銀行女子駅伝部は、「全日本実業団対抗女子駅伝競走大会(クイーンズ駅伝)」をはじめ、数々の陸上大会に出場し好成績を収めている。

また、2023(令和5)年よりランニング教室を開催している。熊本県民総合運動公園にて、走る距離やペースごとに分かれ、女子駅伝部の選手たちによる熱心な指導が行われている。



女子駅伝部が指導するランニング教室

### プロスポーツへの支援

2023年度からプロサッカークラブ「ロアッソ熊本」とプロバスケットボールチーム「熊本ヴォルターズ」のユニフォームパートナーとなった。サンクスマッチ(冠試合)などの実施を通して応援気運を盛り上げている。また新たにプロ野球九州アジアリーグ「火の国サラマンダーズ」への協賛も開始した。2024年6月には、上記3チームについて「肥後銀行 全力応援!」とのメッセージを伝えるのぼり旗を作製して営業店に設置するなど、県内プロスポーツへの支援を拡げている。

2019年10月に「ラグビーワールドカップ2019日本大会」の2試合が、同年11月に「2019女子ハンドボール世界選手権大会」が、それぞれ熊本県内で実施された。当行も地域の企業として大会ボランティアを行内で募集するなど運営に協力した。



ユニフォームパートナー



ロアッソ熊本「肥後銀行サンクスマッチ」2024



熊本ヴォルターズ「肥後銀行ゲームデー」始球式

## (3) ファイナンシャル・ウェルビーイング (金融リテラシー向上支援)

### 「肥後銀行マネープラン」の展開

2021(令和3)年4月、当行ホームページにオンラインコンテンツ「肥後銀行マネープラン」を展開した。営業店支援端末に掲載していたライフプランシミュレーションや資産運用ロボットアドバイザーをリニューアルし、新たに「つみたてNISAシミュレーション」や「相続シミュレーション」、ファンドニュースなどを追加し、常時ホームページで閲覧可能にした。

### 金融経済教育セミナーの実施

地域の皆様にお金に関する正しい知識や判断力を身に付けていただくため、生活設計・家計管理、ローン・クレジット、金融トラブル、資産形成について、小学生から大学生を対象にした金融経済教育セミナーを実施している。



金融経済教育セミナーの様子

## (4) 地域行事への参加

地域のお客様との交流を深め、明るく快適な社会づくりに貢献するため、各種行事や清掃活動などに積極的に参加し、地域と一体となった活動を続けている。

熊本の夏の風物詩である「火の国まつり」では、1978(昭和53)年の第1回よりメインイベントのおて



「火の国まつり」おてもやん総おどり

もやん総おどりに参加している。毎年、行内の有志約100人がオリジナルの踊りを披露し、沿道の皆様に日頃の感謝を伝えている。



「熊本城マラソン」のコース清掃活動

## (5) 社会福祉

### お客様目線のサービス展開

地域の社会福祉の充実に貢献するため、当行はお客様の目線を大切にされた施策を展開している。

2016(平成28)年4月、窓口担当者の声をより明瞭にし、お客様の聴こえを良くする卓上型対話支援機器(コミュニケーション)を全店に導入し、同年7月には、「点字による残高・取引明細発行サービス」を開始した。



コミュニケーション専用スピーカーとマイク

また、2017年3月、「やさしいまどぐち運動」の一環として、車椅子および貸傘を全店に設置した。2019(令和元)年5月には、外国人顧客とのコミュニケーション向上のため、AI自動翻訳機を外国送金を取り扱う

39店舗に配備した。英語、中国語、韓国語など32か国語に対応している。

このほか当行は2009年以降、点字カレンダーを社会福祉法人熊本県視覚障がい者福祉協会に毎年寄贈している。

### 「熊本見守り応援隊」協定

2023年2月、当行は熊本県やそのほかの関連機関と協力し、地域社会で支援する必要があると思われる一人暮らしの高齢者や子どもなどの生活を見守る「熊本見守り応援隊」協定を締結した。日常業務の範囲内で感じた地域住民の異変に関して、熊本県警や社会福祉協議会などと情報を共有し、関係機関や事業者と連携して地域の見守り活動に取り組んだ。



協定締結の様子(熊本県庁)

### グリーンライトアッププロジェクトへの参画

2021年10月、当行は臓器移植医療への理解浸透を目的として、公益財団法人日本臓器移植ネットワークが展開する「GREEN LIGHT-UP Project(グリーンライトアッププロジェクト)」に参画した。

同プロジェクトは、「グリーンリボンデー<sup>3</sup>」の10月16日を中心に、全国各地の著名なランドマークや建物を移植医療のシンボルカラーであるグリーンにライトアップしている。当行も毎年10月の一定期間、本店ビルを緑色のライトで照らしている。



ライトアップした本店ビル

### YMCAフィランソロピー協会への協力

当行はYMCAフィランソロピー協会の幹事企業として、チャリティーボウリングやインターナショナルチャリティーラン、フェアトレードチョコレートの斡旋など、各種ボランティア活動に協力している。



YMCAインターナショナルチャリティーラン

## (6) その他

### 熊本都市圏の渋滞緩和に向けた取り組み

2024(令和6)年9月、熊本都市圏の渋滞緩和に向けて、時差出勤・テレワーク推進と公共交通機関の利用促進に取り組んだ。熊本県と熊本市が9月2日より1か月間、朝のピーク時(7時半～8時半)の通勤職員

の削減を試み、当行も協調した。

出勤時間帯は「7時半までに職場到着」と「8時半以降に通勤開始」の2パターンを設定した。取組みは10月以降も継続した。

### 「熊本県渋滞対策パートナー登録制度」への登録

2025年5月、熊本県の「熊本県渋滞対策パートナー登録制度」に登録した。地域課題解決への貢献と従業員の柔軟な働き方促進を視野に、2024年9月から取り組む時差出勤およびテレワーク制度の活用と公共交通機関の利用を引続き実施した。このほかチャリチャリと連携して、行内の空きスペースなどを活用したシェアサイクルポートの設置もさらに進めている。

### 「1%クラブ」への入会

2018(平成30)年8月、当行は一般社団法人日本経済団体連合会(経団連)が運営する「1%(ワンパーセント)クラブ」に入会した。同クラブは、経常利益や可処分所得の1%相当額以上を自主的に社会貢献活動に支出しようと努める企業や個人からなる団体で、1990(平成2)年11月に任意団体として設立された。2019年4月、経団連の一組織となり、「経団連1%クラブ」と改称した。



<sup>3</sup> グリーンリボンデー:公益社団法人の日本臓器移植ネットワークによると、1997年10月16日に臓器移植法が施行されたため、毎年この日を「グリーンリボンデー」として、家族や大切な人と「移植」のこと、「いのち」のことを話し合い、お互いの臓器提供に関する意思を確認する記念日としている